

OZUNET

おづねっと



血液疾患センター医師

2026年2月号

みなさま、こんにちは。泉大津急性期メディカルセンター 血液疾患センター 副部長の原田 尚憲と申します。

これまで大阪市立大学（現 大阪公立大学）、自治医科大学 附属さいたま医療センターで一般血液内科診療に加えて、集学的治療を要する造血幹細胞移植を含め、修練を積んでまいりました。

地域医療構想に基づき、府中病院と泉大津市立病院は機能を再編・統合し、府中病院で担っていた血液内科の機能は、新設された泉大津急性期メディカルセンターへとスケールアップして移転となりました。

泉州地域の血液内科診療に寄与できるよう、スタッフ一同精進してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

資格 / 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本血液学会血液専門医・指導医
日本造血・免疫細胞療法学会認定医
日本輸血・細胞治療学会認定医

広く受け入れ、深く診る ～新設無菌室で造血幹細胞移植まで対応する血液内科～

広く受け入れ、必要に応じて深く診断・治療につなげる体制

当院 血液疾患センターは、「**広く受け入れ、深く診る**」をコンセプトに、診断がついていない段階の血球異常から、造血幹細胞移植まで対応可能な体制を整えてきました。新設された最新の無菌室を活用し、安全性を確保しながら高度治療を提供する一方で、「この段階で紹介してよいのだろうか」と迷われる症例こそ、速やかに受け入れる窓口を大切にしています。

本稿では、日常診療でよく遭遇する血球の量的・質的異常への考え方を交えながら、当院 血液疾患センターの診療体制と、地域の先生方とどのように連携していきたいと考えているかをご紹介します。

血球数異常から造血幹細胞移植まで血液疾患の振れ幅

血液内科診療では、

「健康診断で血球数異常を指摘されたが、どこまで調べるべきか」

「鉄剤やビタミンB12を投与しても貧血が改善しない」

といった日常診療の中で判断に迷う場面が少なくありません。

一方で、診断が進めば、造血幹細胞移植を含む高度な治療が必要となる症例に発展することもあり、血液疾患は軽症から重症まで振れ幅の大きい領域でもあります。

血球異常をどう考えるか

血球異常の評価は「数」だけでなく「形」を見ることから始まる

血液検査で異常を認めた場合、鑑別の基本は白血球・赤血球・血小板それぞれの「数的異常」と「質的異常」の両面から評価することにあります。

白血球数の増減は、感染症や薬剤性など反応性変化で説明できることも多く、一般診療で一定の整理は可能です。しかし、末梢血での芽球出現や核形・顆粒異常といった**質的異常**は、急性白血病や骨髄異形成症候群（MDS）などの造血器腫瘍を示唆する重要な所見です。

貧血についても、Hb 値や MCV から栄養性貧血や慢性炎症性貧血を推定できますが、大小不同や奇形赤血球などの形態異常は、溶血性貧血や骨髄不全症候群、造血器腫瘍を疑う契機となります。

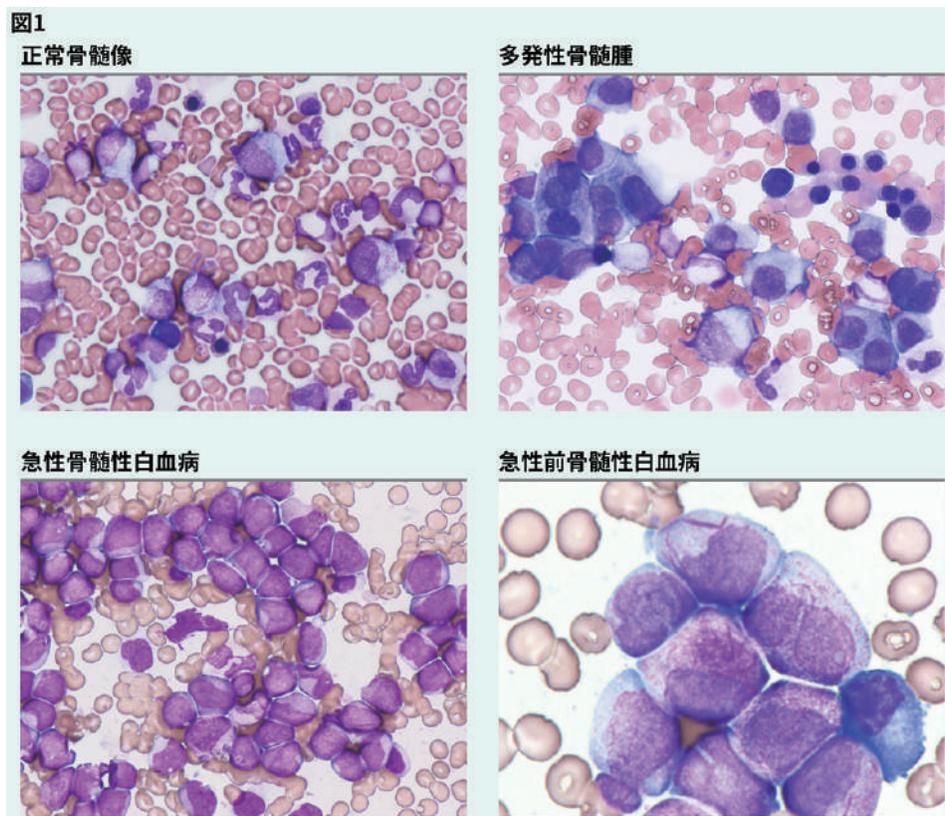
数的異常だけで判断せず、質的異常を見逃さないことが重要

血小板についても、数の異常に加え、大型血小板などの質的異常は骨髄疾患の可能性を示します。

このように、**数的異常のみであれば一般診療で対応可能なケースもありますが、質的異常の評価には末梢血・骨髄検体の目視による形態評価が不可欠**です。

目視による迅速な形態評価が、緊急疾患の早期発見につながる

また精査の過程で、急性白血病など**緊急入院を要する疾患が偶発的に見つかることもあります**。当院では、訓練を受けた臨床検査技師と血液内科専門医による迅速な目視評価を行い、**土曜日を含めた骨髄検査対応**が可能です。「数だけでは説明できない違和感」を感じた段階での専門医介入が重要と考えています。（図 1）



どの時点で血液内科に紹介すべきか 3つのポイント

血球数異常を認めた際、以下のような場合は早期の専門医相談が有用です。

1 数値的異常が説明できない、あるいは経時的に進行している場合

反応性変化として説明できない異常や、徐々に悪化する血球数異常は、骨髄疾患を背景に持つ可能性があります。

2 質的異常が疑われる場合

血算結果に芽球様細胞、核形異常、大型血小板などのコメントが付いた場合や、「何となく違和感がある」と感じた場合は、形態評価が必要です。

3 全身症状や出血傾向を伴う場合

発熱、体重減少、著明な倦怠感、易出血性を伴う血球数異常では、緊急対応を要する疾患が隠れている可能性があります。

当院では、「少し早いかもしれない」と感じる段階でのご相談も含め、速やかな受け入れを大切にしています。

骨髄検査はいつ、どのように行われるのか

骨髄検査は血液疾患の確定診断に不可欠ですが、局所麻酔下で短時間に実施可能な比較的安全な検査です。当院では、検査の必要性を慎重に検討した上で、**必要と判断した場合は土曜日を含め速やかに実施**しています。

採取した検体は、臨床検査技師と血液内科専門医が目視評価を行い、形態所見と臨床情報を総合して診断します。これにより、緊急疾患は迅速に入院治療へ、経過観察可能な症例は適切に外来フォローへと判断することが可能です。

骨髄検査を先送りにせず、**適切なタイミングで行うことが、結果的に患者さんの負担軽減につながる**と考えています。

診断から治療まで当院で完結できる血液疾患診療体制

診断後の治療方針決定には、疾患特性と治療強度的見極めが重要

当院 血液疾患センターでは、近隣医療機関との密な連携のもと、診断から治療までを基本的に当院で完結できる体制を整えています。

血球数異常の精査をきっかけに診断へ進んだ後は、疾患の特性や病期に応じて、外来・入院での化学療法や放射線治療を適切に組み合わせた治療を行っています。疾患によっては、**治療を目指した高強度化学療法**が必要となる場合もあり、その際には十分な支持療法体制のもとで入院治療を実施します。さらに、**自家造血幹細胞移植および同種造血幹細胞移植を含む集学的治療**にも対応可能です。

ハプロ移植を含むあらゆる選択肢を提供

当科は、日本造血・免疫細胞療法学会 移植認定施設であり、あわせて日本骨髄バンクおよび日本さい帯血バンクの認定施設でもあります。血縁者間移植に加え、骨髄バンク・さい帯血バンクを用いた移植、さらには HLA 半合致血縁者間移植（ハプロ移植）にも対応しており、患者さんの背景に応じたドナー選択が可能です。

泉州地域最大規模の無菌室が支える安全な高度治療

治療と生活の質を両立する無菌室診療

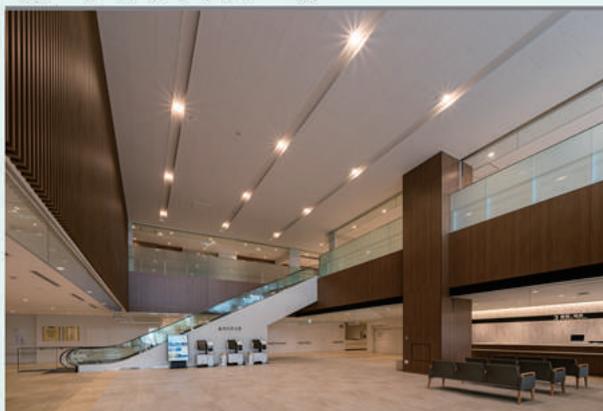
当院の大きな強みの一つが、**泉州地域最大規模の無菌室環境**です。血液疾患センターには 15 床の無菌室を備え、そのうち **10 床が個室**となっています。高度の白血球減少状態にある患者さんでも、感染症リスクを最小限に抑えながら、安心して化学療法を行うことが可能です。

府中病院から泉大津急性期メディカルセンターへの移転に伴い、無菌室の**共有スペースも無菌環境として整備**しました。これにより、無菌室でありながら比較的広い空間を確保でき、**入院中のリハビリテーションも可能**となっています。

長期入院に伴う身体機能低下や心理的ストレスの軽減を図れる点は、患者さんからも高い評価をいただいています。安全性を最優先にしながら、患者さん一人ひとりに最適な治療環境を提供できることが、当院の無菌室診療の特徴です。（図 2）

図2

1階エントランスホール



外来化学療法室



無菌室



無菌室共有スペース



多職種連携による包括的な血液疾患診療

看護師・薬剤師・臨床検査技師が治療の安全性をサポート

高度な血液疾患治療を支えるためには、医師だけでなく**多職種が専門性を発揮しながら連携する体制**が不可欠です。当科では、各職種が役割を明確にし、入院から外来まで切れ目のない医療を提供しています。



専門性を生かした役割分担で質の高い診療を実現

看護面では、**がん化学療法看護 認定看護師**や**緩和ケア 認定看護師**を中心に、専門性の高いケアを実践しています。治療の副作用対策だけでなく、患者さんやご家族の不安に寄り添った支援を行っています。

薬剤面では、**がん薬物療法認定薬剤師を含む複数の薬剤師**が治療に参画し、抗がん薬の用量設計や副作用管理、内服指導を通じて、安全で効果的な薬物療法を支えています。

検査部門では、**血液内科および輸血医療に精通した臨床検査技師が常駐**しており、末梢血像・骨髓像の目視判定を院内で即日実施可能です。これにより、血液疾患の迅速かつ正確な診断を行うことができます。

身体面だけでなく精神的ケアまで包括支援する

また、治療中の身体機能低下を防ぐため、**理学療法士・作業療法士による早期リハビリテーション**にも力を入れています。無菌室内での介入も積極的に行い、患者さんの生活機能維持を支援しています。

栄養面では、**管理栄養士による個別面談**を通じて、治療内容や感染リスクに応じた栄養管理・食事指導を行っています。

精神的サポートについても、**臨床スピリチュアルケア カウンセラー**が関わり、患者さん・ご家族の思いを大切にされた支援を提供しています。

地域の先生方へ「迷ったら、まずご相談を」

当院 血液疾患センターは、移転後に**ハード面・ソフト面の双方で大きくパワーアップ**し、地域の血液内科診療に、より一層貢献できる体制が整いました。

血球数異常の段階で、「この時点で紹介してよいのだろうか」と迷われる症例こそ、私たちは大切に受け入れたいと考えています。

少しでも血液疾患を疑う状況があれば、ぜひお気軽にご紹介ください。地域の先生方と連携しながら、患者さんにとって最適な医療を共に提供していきたいと考えています。泉州地域の血液内科診療に寄与できるよう、スタッフ一同精進してまいりますので、今後ともよろしくご厚意申し上げます。

診療実績

○ 移植件数

血縁間同種造血幹細胞移植	2
非血縁間同種造血幹細胞移植	7
臍帯血移植	1
自家造血幹細胞移植	3

(2024年1月1日【再編統合前】～2025年11月30日実績)

○ 放射線治療件数

局所放射線照射	33
全身放射線照射	4

(2024年1月1日【再編統合前】～2025年10月31日実績)

○ 主な新入院症例内訳（再入院含む）

症例	件数
非ホジキンリンパ腫	282
急性白血病	179
骨髄異形成症候群	87
多発性骨髄腫	72
免疫性血小板減少性紫斑病及び他、出血性疾患	34
再生不良性貧血	32
溶血性貧血など他、貧血性疾患	28
骨髄増殖性腫瘍	15
ホジキンリンパ腫	9

(2024年1月1日【再編統合前】～2025年10月31日退院)

ご予約方法（患者さんの紹介方法）

- 1 診察・検査申込用紙【FAX用】にご記入ください。
（各種検査申込用紙はホームページからダウンロードしてご使用ください）
- 2 申込書を地域医療連携室へFAXしてください。
- 3 予約状況を確認し、予約をお取りいたします。
- 4 予約票をFAXで返送いたします。
- 5 予約票を患者さんへお渡しください。
当日予約票・診療情報提供書をご持参ください。

※お急ぎの場合はお電話でも対応させていただきます。

※予約状況により、ご希望に添えないことがございます。ご了承ください。

予約受付時間

月～金曜日 9:00～20:00まで

土曜日 9:00～17:00まで ※日曜・祝日を除く

Tel. 0725-58-8235 Fax. 0725-58-8238

泉大津急性期メディカルセンター 地域医療連携室

無料送迎バス

下記の送迎バスを運行しています（日曜・祝日は運行していません）。

- …「高石駅高架下→鶴山台バス停→鶴山台停留所」行
- …「泉大津駅→松ノ浜駅→泉大津森郵便局前」行
- …「和泉青葉台→和泉中央駅」行
- …「ベルランド総合病院（府中病院・ベルアンサンプル経由）」行
- …シャトルバス「当院→府中病院→JR和泉府中駅」行

※泉大津市運営の「ふれあいバス」北・中・南回り全コース停留します。

時刻表など
詳細はこちら



Address. 〒595-0031 大阪府泉大津市我孫子 97-1

Mail. chiikirenkei@imc.seichokai.or.jp

病院WEBサイト



YouTube



Instagram



LINE



患者さんの紹介に関するご不明な点は、地域医療連携室までご連絡ください。

おづねっと Vol.12

発行日：2026年2月10日 発行責任者：院長 竹内 一浩 編集責任者：地域連携部長 家口 尚 編集者：地域医療連携室